

2024年9月吉日

DUFFY...FASHION / PORTRAITS

ダフィー…ファッション / ポートレイト展

Part 1 **FASHION** : 2024年10月16日(水)～12月22日(日)

Part 2 **PORTRAITS** : 2025年1月15日(水)～3月22日(土)

1:00PM～6:00PM/ 水曜～日曜 月曜火曜は休廊 / 入場無料

ブリッツ・ギャラリー

〒153-0064 東京都目黒区下目黒6-20-29 TEL 03-3714-0552

JR 目黒駅からバス、目黒消防署下車徒歩3分 / 東急東横線学芸大学下車徒歩15分

ブリッツ・ギャラリーはダフィー (Brian Duffy, 1933 - 2010) の写真展「DUFFY... FASHION / PORTRAITS」(ダフィー... ファッション / ポートレイト展)を2024年10月から開催いたします。当ギャラリーでは2014年の「DUFFY... PHOTOGRAPHER」(ダフィー・フォトグラファー展)、2017年の「Duffy/Bowie-Five Sessions」(ダフィー・ボウイ・ファイブ・セッションズ展)以来の開催となります。本展ではダフィーのキャリアの軌跡を本格的に紹介。彼の作品をパート1ではファッション写真を中心に、パート2ではポートレイト写真を中心で展示いたします。展示される作品は、作家の遺志を受け継いだ息子クリス氏が運営するダフィー・アーカイブが監修/制作したエステート・プリント作品です。また日本のコレクター向けに、今回のブリッツ・ギャラリーでの写真展限定プリントもリーズナブルな価格で特別販売いたします。(サイズ約31X21cm/27X27cm、アーカイブのエンボス/サイン入り作品証明書付き)

ダフィーは60～70年代に活躍した英国人ファッション写真家です。彼は、デビット・ベイリー、テレンス・ドノヴァンとともに60年代スウィングング・ロンドンの偉大なイメージ・メーカーでした。また彼ら自身も、被写体の俳優、ミュージシャン、モデルと同様の有名なスター・フォトグラファーでした。3人の写真家はそれまで主流だったスタジオでのポートレイト撮影を拒否し、ドキュメンタリー的なファッション写真で業界の基準を大きく変えた革新者でした。彼らこそは、いまでは当たり前のストリートでのファッション・フォトの先駆者たちだったのです。当時のザ・サンデータイムズは、有名写真家ノーマン・パーキンソンが3人のことを「(The Black Trinity 不吉な3人組)」と呼んだと紹介しています。

ダフィーのキャリアは、ザ・サンデータイムズの仕事をから始まります。その後1957年から1963年まではブリティッシュ・ヴォーグ誌で仕事を行い、ジーン・シュリンプトンなどのトップ・モデルを撮影。60年代はフランスのエル誌など英国以外の雑誌、新聞で活躍します。70年代以降では、ベンソン&ヘッジスやスミノフの広告キャンペーン、2度に渡るピレリ・カレンダー(1965年、1973年)の仕事で知られています。これらのファッション写真はパート1で約25点を展示する予定です。

また彼はファッションとともに、時代を代表するセレブリティー、シドニー・ポワティエ、マイケル・ケイン、トム・コートネイ、サミー・ディヴィス・ジュニア、ニーナ・シモン、ジョン・レノン、ポール・マッカートニー、チャールストン・ヘストン、ウィリアム・バロウズ、アーノルド・シュワルツェネッガー、ブリジッド・バルドーなどの撮影で知られています。70年代にはデヴィッド・ボウイ(1947-2016)と、“ジギー・スターダスト Ziggy Stardust”(1972年)、“アラジン・セイン Aladdin Sane”(1973年)、“シン・ホワイト・デューク The Thin White Duke”(1975年)、“ロジャー Lodger”(1979年)、“スケアリー・モンスター Scary Monsters”(1980年)の5回の撮影セッションを行っています。特にアラジン・セインのアルバムジャケットに使用された写真は極めて有名で、「ポップ・カルチャーにおけるモナリザ」とも呼ばれています。写真家ダフィーの名前を知らない人でもこの写真は見たことがあるでしょう。これらの珠玉のポートレイトはパート2で約25点が展示される予定です。

1979年にダフィーは写真撮影の仕事をやめてしまい、スタジオ裏庭で多くのネガを燃やしてしまいました。しかし、2006年から息子のクリス氏がダフィーの資料精査を開始。幸運にも全てのネガが消失していないことが判明します。新たに多くのネガが再発見され、主な作品は2011年に写真集“DUFFY PHOTOGRAPHER”(ACC刊)として纏められました。その後、60年代に活躍したベイリー、ドノヴァンに次ぐ第3の男として再注目され、世界中で数多くの写真展が開催されています。また2013年夏、ロンドンのヴィクトリア&アルバート美術館で開催された“DAVID BOWIE is”展では、ダフィーの作品がメイン・ヴィジュアルとして採用。アラジン・セイン・セッションでのボウイが目を開いた未使用カットは話題になり、ダフィー人気が再燃しました。(同展は2017年東京で巡回開催)

本展では、60年代～70年代の気分や雰囲気が楽しめる、ダフィーの珠玉のファッション / ポートレイト作品を展示いたします。つきましては、ぜひ貴媒体にて紹介くださいますようよろしくお願い申し上げます。

ダフィー プロフィール

ロンドン出身。60～70年代にかけて、ファッション雑誌、広告、ポートレイトの分野で活躍。デヴィッド・ベイリー、テレンス・ドノヴァンとともに“スウィンギング・ロンドン”と呼ばれる60年代ロンドンのストリートカルチャーを牽引した。2011年に写真集“DUFFY PHOTOGRAPHER”(ACC刊)が刊行、2013年にヴィクトリア&アルバート美術館で開催された“DAVID BOWIE is”展では、ダフィーが撮影したデヴィッド・ボウイの作品がメイン・ヴィジュアルとして採用されるなど死後になって再注目されている。

Brian Duffy (1933-2010)

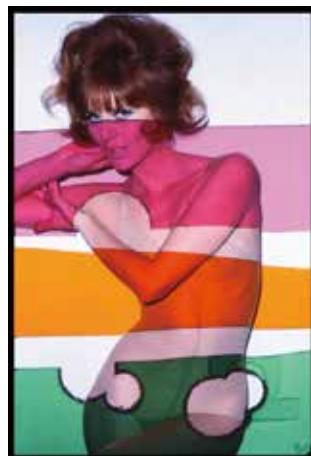
展示作品画像 (Part-1 FASHION*)



Ponte Vecchio, Florence, Vogue, 1962
© Duffy Archive



Jean Shrimpton, Edgware Road, London, Vogue, 1960 © Duffy Archive



Paulene Stone, Queen magazine, September 1965 © Duffy Archive



Via Degli Strozzi, Florence, Vogue, 1962
© Duffy Archive



Jill Kennington in Convertible DB5, Queen Magazine, 1965
© Duffy Archive



Geneviève Grad, French Elle, 1966
© Duffy Archive

- 3/3 -

* 「Part-2 PORTRAITS」の展示画像は12月を目途にご案内いたします。